

わたくんとわたちゃん

龍郷町立戸口小学校 二年 大の み月

たんぼぼの子わたくんとわたちゃんは、とうてもなかよしです。何日もかかって、おかあさんがたっぷりえいようをおくってくれたのでもうすっかり大きくてりっぴなわた毛になりました。そして、とうとう、たびにでる日がきました。きょうは、よく晴れて風のある日です。たんぼぼのたびだちには、さいこうの日です。

ほかのたくさんのきょうだいたちもみんな朝からそわそわして、それぞれどこへいこうかと話し合っています。もちろん、わたちゃんは、わたくんをさそいました。

「ねえわたくん、さいこうの風がふいたらいっしょに手をつないででかけようね。」

「いいよ。わたちゃんは、まず、どこへ行ってみたいの。」

「わたしは、毎日見ていたあの教室へ行ってみたいな。そして、いつも楽しそうにあそんでいる人間の子どもとお話をしてみたい。」

「ようし、きまりだ。そうしよう。」

そのときです。あたたかい風がふいてきました。

「さあ、みんな、元気にとんで行って。つらいこともあるかもしれないけど、きつとどこかで黄色いきれいな花をさかせてね。」

というおかあさんのやさしい声を聞きながら、みんないっせいに風にのってとびだしました。みんな、山の方へ、野原の方へ、海の方へととんでいきました。わたちゃんとわたくんは、やくそくどおり学校の教室にむかいました。

すると、とつぜん、

「おうい。たんぼぼのわた毛がとんできたよ。国語でならったのと同じだ。つかまえる。」

という声がして大きな男の子がはしってきました。こんなところではつかまったらたいへんです。

「わたくん、たすけて。」

「わかった。いっしょににげよう。」

でも、子どもたちは、どんどんおいついてきます。上の方ににげて、やっと助かったと思ったのに、つくえの上ののっていた子につかまってしまいました。その子の手の中で、

「人間ってこわいね。」

「ぼくたち、ぜんぜんたびしてないのに。」

二人は、なきだしました。教室のみんなは、

「わた毛、ぼくにもかして。」

「わたしにも見せて。」

「さわらせて。」

とおおさわぎでつきつきとわたされて、目が回ってしまいました。もうだめと思ったとき、小さい女の子がやってきて、

「たんぼぼは、なかまをぶやすためにたねを遠くまでとばす

「つてべんきょうしたでしょう。外にとばしてあげようよ。」
と言ってくれました。そうして次の風がふいたときに町の方
へとばしてくれました。

二人は、また風にのつてとびました。

「やさしい子がいてよかったね。」

と話しながらとんでいると、町が見えてきました。大きない
えやビルがたくさんあります。

そのとき、風がとまってわたくんが下へおちてしまいました
た。そこは、車がたくさん走っているどうろでした。わたく
んは、あちこちどころがされていきます。わたちゃんが、
「だれかたすけて。わたくんをたすけて。」

とさげんだとき、まっ白なチョウがとんできてわたくんをつ
かまえてくれました。もう少しで車にひかれそうでした。二
人のおれいを言うつと、

「どこまで行くの。わたしがつれていってあげる。」

「土のあるきれいなところに行きたいなあ。」

「それならむこうのこうえんがいいね。」
と二人をこうえんにつれて行きました。

わたくとわたちゃんは、こうえんのはしっこの少ししか
いとこにならんですわりました。そこでなかよくお話をし
て春をまちました。

「やっといいとこにこれたね。」

「がんばってよかったね。」

「やさしい人がいてうれしかったね。」

「わたしたちも、いいことをしたいね。」

そして春になるとおかささんとやくそくしたとおり黄色
いきれいなたんぼの花をたくさんさかせました。